

令和2年度 事業報告



令和2年12月16日(水)
令和3年 1月12日(火)
「道徳科教育の充実」



令和2年12月21日(月)
「釧路市の教育～採用2年目研修会～」



令和2年9月25日(金)・30日(水)
「算数・数学科の授業づくり」



令和3年1月18日(月)
「性教育の充実」

《研究紀要等の発行》

	発 行 物	部 数	配 布 先
1	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育通信 <li style="padding-left: 2em;">No. 22 <li style="padding-left: 2em;">No. 23 <li style="padding-left: 4em;">(特別支援教育研究専門委員会) 	<ul style="list-style-type: none"> メール配信 メール配信 	小・中学校 教育関係機関等
2	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要第191号 <li style="padding-left: 2em;">「今すぐできる！プログラミング教育」 <li style="padding-left: 4em;">(教育工学研究専門委員会) 	200	小・中学校 教育関係機関等
3	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度版 郷土読本「くしろ」 	1500	小学校 (新3年児童)
4	<ul style="list-style-type: none"> ・所報「釧路教育」 <li style="padding-left: 2em;">No. 305 <li style="padding-left: 2em;">No. 306 <li style="padding-left: 2em;">No. 307 	<ul style="list-style-type: none"> 300 300 300 	小・中学校 教育関係機関等

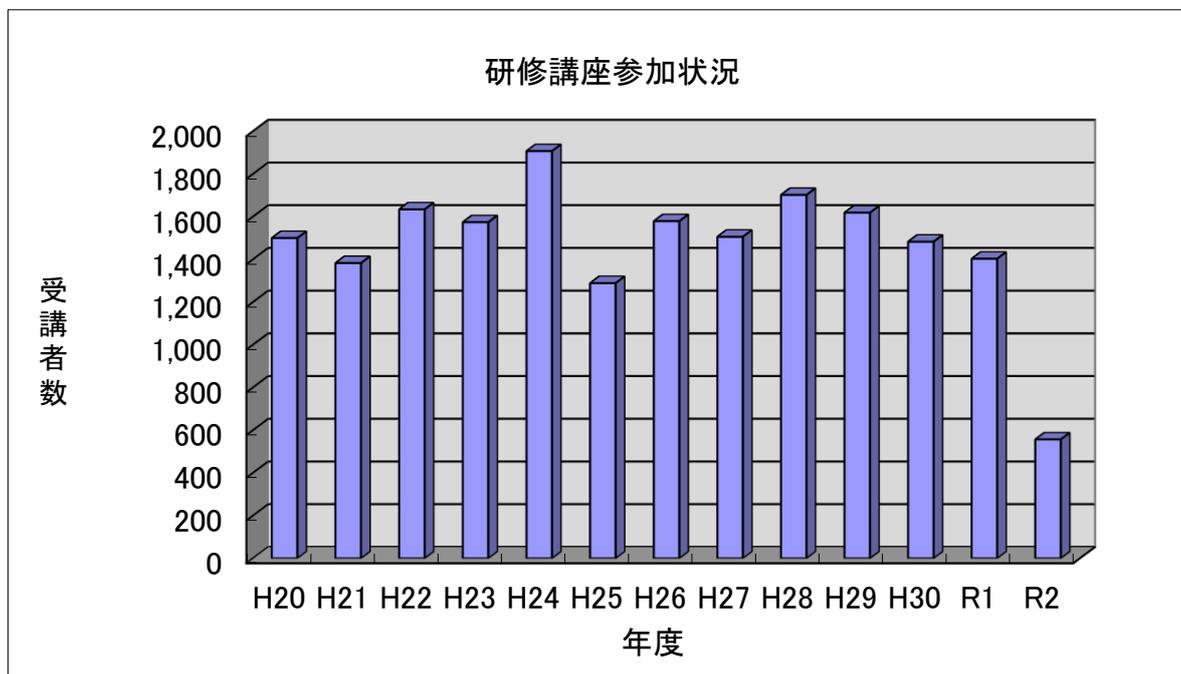
《研修講座参加状況》

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度開講した研修講座数は14講座
(令和元年度に開講した研修講座数は32講座)

※()は令和元年度受講者数。

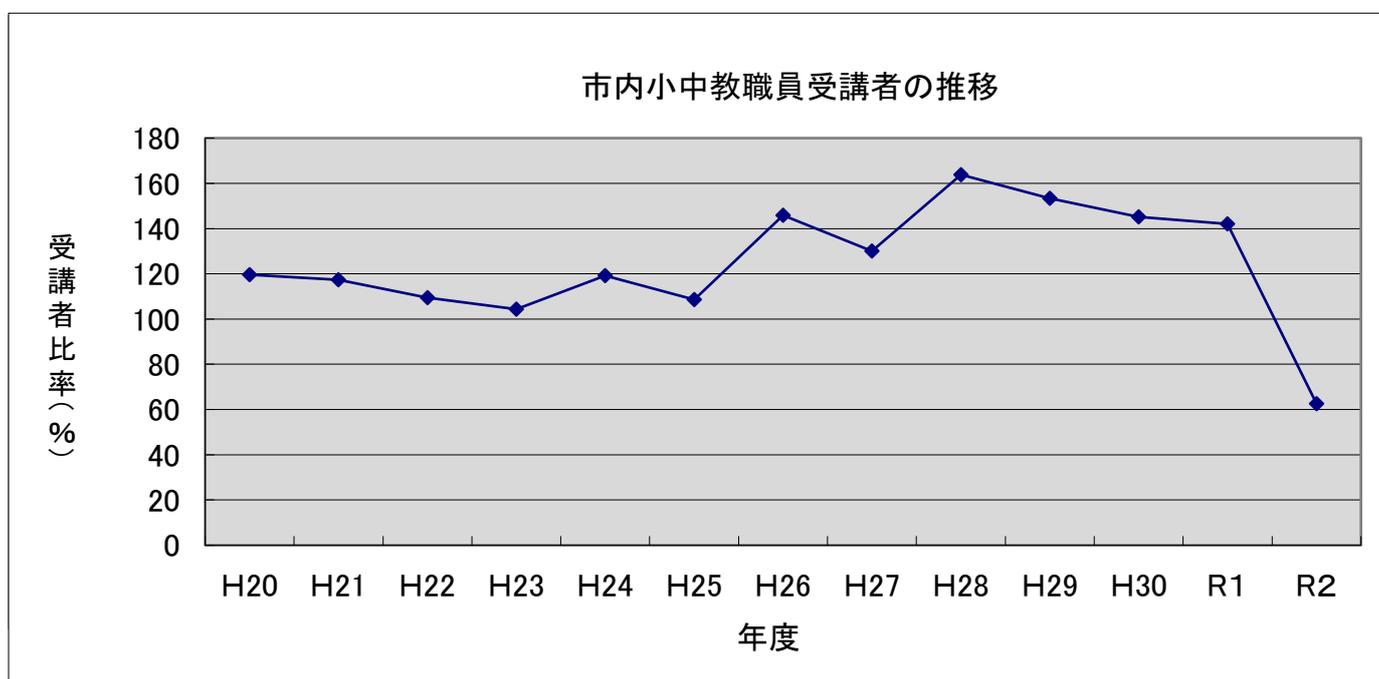
	市内小中教職員	管内小中教職員	幼・高・一般等	合計
受講者数	528(1265)	15(75)	14(63)	557(1403)

年度	受講者
H20	1,500
H21	1,383
H22	1,634
H23	1,574
H24	1,907
H25	1,289
H26	1,579
H27	1,506
H28	1,702
H29	1,619
H30	1,483
R1	1,403
R2	557



《市内小中教職員参加状況》 釧路市立小中学校教職員に対する受講者数の比率(%)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
受講者数	1,092	1,006	943	894	1,068	935	1,266	1,123	1,424	1,385	1,305	1,265	528
比率(%)	119.6	117.4	109.5	104.3	119.2	108.6	145.9	130.1	163.8	153.4	145.2	142.1	62.6



釧路教育研究センター研修講座 参加人数（令和2年度実績）

番号	講座名	期日	会場	対象	参加人数
1	国語科教育の授業づくり	9月24日(木) 10月1日(木)	各学校(オンライン配信)	小・中	49
2	算数・数学科の授業づくり	9月25日(金) 9月30日(水)	各学校(オンライン配信)	小・中	55
3	道徳科教育の充実	12月16日(水) 1月12日(火)	釧路教育研究センター	小・中・幼・保・認・高	26
4	外国語教育の充実	12月23日(水)	各学校(オンライン配信)	小・中・高	32
5	体育科教育の充実	12月22日(火)	釧路市立清明小学校	小・中・幼・保・認	10
6	幼保小連携と協働	11月18日(水)	釧路教育研究センター	小・中・幼・保・認	33
7	エネルギー環境教育	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止			
8	釧路市の教育～採用2年目研修会～	12月21日(月)	釧路教育研究センター	小・中(採用2年目教員)	44
9	いじめ・不登校・児童虐待への対応 ～ケース対応・教育相談の充実～	10月12日(月)	釧路教育研究センター	小・中・幼・保・認・高	49
10	学びに向かう力を育む学習集団づくり	1月14日(木)	釧路市立春採中学校 各学校(オンライン配信)	小・中	44
11	特別支援教育の充実Ⅰ	5月～6月	各学校(訪問形式での実施)	小・中	143
12	特別支援教育の充実Ⅱ	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止			
13	校内研修の充実	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、資料配布にて対応			
14	音楽科教育	1月20日(水)	釧路教育研究センター	小・中・幼・保・認・高	23
15	プログラミング教育(ミニ研修)	11月17日(火) 12月1日(火)	釧路市立昭和小学校 釧路市立清明小学校	小・中	15
16	性教育の充実	1月18日(月)	釧路教育研究センター	小・中・幼・保・認・高	19
17	防災教育の充実	2月15日(月)	各学校(オンライン配信)	小・中・幼・保・認・高	15
18	公開研に行こう～城山小学校～	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止			
19	公開研に行こう～大楽毛小学校～	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止			
20	公開研に行こう～大楽毛中学校～	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止			
21	公開研に行こう～昭和小学校～	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止			
22	公開研に行こう～阿寒湖小学校～	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、センター研修講座としての開講は中止			

【釧路教育研究センター 教育講演会】

講師・演題等	期日	会場	対象	参加人数
講師：杉本昌隆氏(将棋棋士) 演題：『棋士として、師として ～弟子・藤井聡太の学び方～』	2月13日(土)	・釧路市生涯学習センター 大ホール ・オンライン配信	小・中・幼・保・認・高・一般	336

《教育相談状況》

○月別・相談内容別 集計表

【面談：1 電話：32 メール：6 延件数：39件】

内容	月													合計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
1 学習・進路												1	1	
2 特別支援												1	1	
3 家庭教育													0	
4 非行・問題行動													0	
5 不登校			3 (3)	7	4 (2)	4 (1)	2	1	2	1	1	2	27	
6 いじめ							1						1	
7 学校生活					1	1							2	
8 学校不信				1				2		2			5	
9 部活動・同好会													0	
10 その他									2				2	
合計	0	0	3	8	5	5	3	3	4	3	1	4	39	

※ () はメール相談内数

○校種別・内容別 集計表

内容	校種								合計
	幼児	小学校	中学校	高校	大学	一般	不明		
学習・進路			1					1	
								2.6%	
特別支援			1					1	
								2.6%	
家庭教育								0	
								0%	
非行・問題行動								0	
								0%	
不登校		5	18 (6)	1			3	27	
								69.2%	
いじめ		1						1	
								3%	
学校生活			2					2	
								5%	
学校不信		2					3	5	
								12.8%	
部活動・同好会								0	
								0%	
その他			2					2	
								5.1%	
合計	0	8	24	1	0	0	6	39	
	0%	20.5%	61.5%	2.6%	0%	0%	15%		

継続相談を含むため、相談件数が問題発生件数を示しているわけではありません。

※ () はメール相談内数

◀ 釧路教育研究センター 施設利用状況 ▶

◇釧路市

利用目的・機関	回数	人数	備考
① 研修講座	6	194	
② 所員研修	97	582	
③ 専門委員研修	24	720	
④ 市教育委員会	86	2204	
⑤ 研究団体等	122	2686	
⑥ センター主催会議	1	14	
計	336	6400	

◇釧路教育局

利用目的	回数	人数	備考
① 研修講座・会議	17	192	

◇釧路管内・釧路教育研究所

利用目的	回数	人数	備考
① 研修講座	0	0	
② 釧研所員会議	10	154	
③ 事務局会議等	6	96	
④ 研究団体等	71	71	
計	87	321	

●施設利用 総計

	回数	人数	備考
計	440	6913	

◀ 視聴覚機材及び教材の利用状況 ▶

◇機材

	27年度	28年度	29年度	30年度	R元年度	2年度
① 学校教育	67	81	94	85	76	113
② 社会教育	17	13	32	17	6	2
計	84	94	126	102	82	115

◇教材

	27年度	28年度	29年度	30年度	R元年度	2年度
① 学校教育	50	63	27	26	6	3
② 社会教育	36	79	29	57	18	0
計	86	142	56	83	24	3
※ () はDVD及び16mmフィルム	(8)	(12)	(21)	(23)	(19)	(1)

**教員の資質向上
鉦路で研修講座**
初回はオンライン形式
鉦路市教育委員会は24日、今年度1回目の鉦路教育研究センター研修講座をオンライン形式で開いた。鉦路管内の教員ら24人が参加。今年度から小学校でスタートした新学習指導要領を踏まえた国語の授業について理解を深めた。



「主体的・対話的で深い学び」を授業にどう取り入れるかなどについて話し合われた。鶴野小学校の久末卓矢教諭が宮沢賢治の「やまなし」を教材とめて、何を学ぶかの見通しを持たせていることなどが説明された。

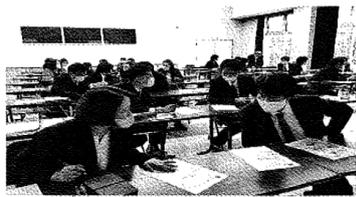
参加者は授業などを基に意見交換。助言者を務めた北中学校の松岡伸之校長は学習意欲の持続が主体的な学びにつながるとし、描写力を学んだ後は作文を書くなどとして、これだけ身に付いたか実感させることが重要と指摘。一方で「学ばせること自体が目的ではない。どんな力を身に付けさせたいか」を定めるべき」と強調した。

市教委は研修講座を通してオンライン形式の質向上にもつなげたい考え。今後は状況も見ながら開催方式を検討し、計16回の実施を予定している。(片山新平)

↑ R2. 9. 26
鉦路新聞

**鉦路市教委 いじめ等対応研修講座
専門的スキル習得へ研鑽**

SC等が具体的対応説明



【鉦路市】鉦路市教委は24日、鉦路教育研究センターで研修講座「いじめ・SCやスクールソーシャルワーカー(SSW)の不登校・児童虐待への対応」を開いた。市内の小・中学校の生徒指導担当者など約40人が参加し、講師を務めたスクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)が、いじめや教育相談、不登校・児童虐待への対応について説明した。未然防止が最も理想的な段階とした上で、いじめの手を擴げないこと、児童虐待の対応には、子どもの状態を把握する力や支援を具体化する調整力といった専門的スキルの習得が求められることを指摘した。

「いじめや教育相談、不登校・児童虐待への対応」について説明した。未然防止が最も理想的な段階とした上で、いじめの手を擴げないこと、児童虐待の対応には、子どもの状態を把握する力や支援を具体化する調整力といった専門的スキルの習得が求められることを指摘した。

↑ R2. 10. 20
北海道通信

加藤子さんは、スクールカウンセラーの立場付けや役割について説明したあと、コロナ禍による生活の変化やストレス感などを紹介。新型コロナウイルスに負けないためセルフケアやリラクゼーションを解説するとともに、子どもの微妙な変化にも注意するよう促した。

つぎに、カウンセリング技法の一つでありフレキシブルな対応が求められる「リスニング」は、ある程度相手の「フレーム」で考えられるべきだと述べた。

また、児童虐待への対応に関し、虐待の分類と被害を受けた子どもに与えられることが多い状態を説明。児童虐待対応のポイントとして、事例ごとの具体例を提示し、虐待内容による不登校・児童虐待への対応について、特学校からの問い合わせが多いものを中心に、関係機関の連携が不可欠であることを訴えた。

釧路市教委研修講座「道徳教育の充実」

学級経営の重要性確認

城山小の授業視聴など

【釧路発】釧路市教委は、藤井健史教諭が指導する6年道徳科授業の映像を視聴して研修講座「道徳科教育の充実」を聞いた。釧路市内の小学校教員19人が受講。授業指導や協議・潤滑等を通じ、今求められている道徳科の授業の在り方について理解を深めた。

はじめに、城山小学校の

「いや、自分の気持ちをごまかしているなぞ、いろいろと考え、悩む。意見を出し合う中で、自分の気持ちに、誠実に向き合っている」との大切さについて話した。

研究協議では、学級の子どもたちの人間関係の良さに共感する意見が出た。自由な雰囲気にならざるを得ない学級の土壌があるため、子どもの発言が生き生きと出ている。話し合いが深まってい



このあと、低・中・高学年と特別支援の4グループで授業を参考に、中心発問から組み立てる指導案作成の練習にも取り組んだ。

たという声がかれた。実践などについて交流、視察が高まり、安心感が出る。自由に発言できる環境づくりと、議論ができるスキルトレーニングを意図的・計画的に取組んでいく必要がある」とし、考え、議論する道徳の授業への期待を寄せた。

なお、「道徳科教育の充実」の中学校教員向け研修講座は、来年1月中旬に実施する予定。

R2. 12. 22 →
北海道通信

釧路市教委講座 プログラミング教育
体験通し指導技能向上
市内小学校教員12人受講

【釧路発】釧路市教委は、ター教育工学研究専門委員会が企画・運営、小学校に座「プログラミング教育」を聞いた。市内の小学校教員12人が受講。体験研修などを通して指導する上での技能向上に努め、プログラミング教育への理解を深めた。

講座は釧路教育研究センター

【釧路発】釧路市教委は、ター教育工学研究専門委員会が企画・運営、小学校に座「プログラミング教育」を聞いた。市内の小学校教員12人が受講。体験研修などを通して指導する上での技能向上に努め、プログラミング教育への理解を深めた。

講座は釧路教育研究センター



最後に、ジャストスマイル8を使い、体育における鉄棒の逆上がりの実践例を紹介した。動画と静止画の2分割映像や、成功映像と失敗映像を重ね合わせることで、子どもが課題に気づきやすくなるポイントなどを解説。プログラミングが、主体的に学ぶための、より効果的に使える教材の一つであることを強調した。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2回に分けて実施。1回目は11月中旬に昭和小学校で行っており、今回が2回目となる。

はじめに、教育工学担当所員の浅田貴由教諭（興津小）が小学校プログラミング教育について説明。学習指導要領をもとに、その必要性やねらいを解説したほか、どの段階でプログラミングの授業を行うのかなどを示した。

新しい「5年算数の「正多角形の作図」をもとに、具体的な指導場面を提示。系統性のあるプログラミング教育を行うための全体計画の作成は、個人ではなく、学校全体で取り組む必要性があることを強調した。

つぎに、教育工学研究専門委員の稲垣宏治教諭（清見小）がプログラミングの体験研修を実施。市内の小学校に導入している学習・授業支援ソフト「ジャストスマイル8」を使って、算数や理科、音楽などの実技

研修を行った。

このうち、音楽では4年「いろいろなリズムを感じ取るう」を取り上げ、拍子に合わせたリズムや楽器の組み合わせをプログラミング。正確なリズムや様々な曲想を創作して音楽の楽しさを膨らませる体験をした。

最後に、ジャストスマイル8を使い、体育における鉄棒の逆上がりの実践例を紹介した。動画と静止画の2分割映像や、成功映像と失敗映像を重ね合わせることで、子どもが課題に気づきやすくなるポイントなどを解説。プログラミングが、主体的に学ぶための、より効果的に使える教材の一つであることを強調した。

← R2. 12. 9
北海道通信

釧路市教委 教員採用2年目対象

地元の教員 意識高め

学力向上等で研修講座

【釧路発】釧路市教委は21日、釧路教育研究センターで研修講座「釧路の教育」を採用2年目研修会を開いた。市内小・中学校から採用2年目の教員41人が受講。釧路市ビジネスサポートセンターの澄川誠治センター長の講話や、学力向上などをテーマとした研修を通して、釧路市の教員としての意識を高めた。

研修講座は採用2年目の教員を対象に毎年実施。市の課題や今後の教育活動の在り方について理解を深めるだけでなく、これからの教育を担う教員に求められる資質を養うことがねらいとなっている。

はじめに、澄川センター長が「新しい時代の教育を担う教員として」と題して講演した。

教育は、地域に根付いているもので「究極のまらおこし」とした上で「できない案よりもできる案を推進し、変えやすいところから変えていくことが大切。悪いところは誰でも指摘できるが、伸ばせる白地を発見できるかが肝」と強調。これからの社会は、自律的に成長できる人材が求められることを伝えた。

また、レジリエンス（跳ね返り・復元力・回復力・弾力）について解説。レジリエンスを高めるための方法を示し、「健康と規則正しい生活習慣に気を付け、交友関係が良好であることが重要」と訴えた。



最後に「釧路の教育をアップデートできるのは皆さん」とエールを送った。

このあと、市教委の吉岡康一朗指導主事が「求められる学習指導・生徒指導」「関本裕介指導主事が「求められる特別支援教育」について説明し、演習を指導した。

求められる学習指導では、マンガラチャートを使った演習を実施。9マスの中央に書かれた「学力向上に向けた取組」を実行するために必要な要素を8つ記入。さらにその8つの要素を実現するための具体策を考えることで、学力向上に向けた取組をより明確にした。

R2. 12. 24 →
北海道通信

釧路市教委が音楽教育研修講座 コロナ禍の指導法とは 実技交え楽しみ方学ぶ

【釧路発】釧路市教委は20日、釧路教育研究センターで研修講座「音楽科教育」を開いた。釧路管内の小・中学校、特別支援学校、認定こども園の教員25人が受講。コロナ禍での音楽の楽しみ方や合唱の指導法などについて学んだ。

法などについて、実技等を交えながら研修を深めた。音楽科における創造活動の基礎的な能力や豊かな情操を養うための指導力の向上を目指し、授業で活用できる技法等について学ぶことなどをねらいとしている。

中・高校で長年音楽教師を務めた中野専任講師は、吹奏楽部の指導者として全

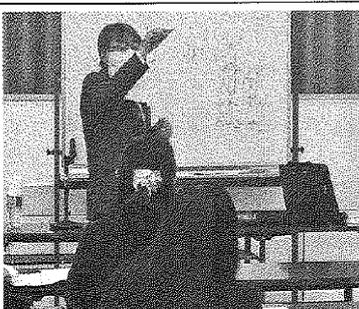
国大会出場をはじめ、27年連続で全道大会に出場するなど、多くの子どもたちに音楽の楽しさを伝えてきた。また、50年にわたって市民合唱団「コール・カンパニー」の指揮、指導に当たるなど、豊富な指導経験をもっている。

中野専任講師は、コロナ禍の現在、歌やリコーダーなど、飛沫が飛びやすい音楽の授業が指導しにくい現状を踏まえ「どうやって」

音楽の楽しさを伝えることができるかを考えていくことが大切」と訴えた。マスクの代わりに、鼻から下が布で覆われた「歌えるマスク」を紹介した上で、飛沫が飛びやすい音だけを抜いて歌うなどの工夫や、ハミングも歌の一種と紹介するなど、様々な工夫で音楽の楽しさを伝えられることを強調した。

歌の練習法では、口の中心を広く開け、鼻の上、目の奥、眉間の中央など、音を響かせるポイントを示したほか、声を共鳴させ、自然に無理のない発声で歌うことの大切さを示した。

最後に、音楽の素晴らしさは、ほかの人と一緒に何かをつくり上げられることとし、「先生自身が音楽の楽しさを感じてほしい」と期待を寄せていた。

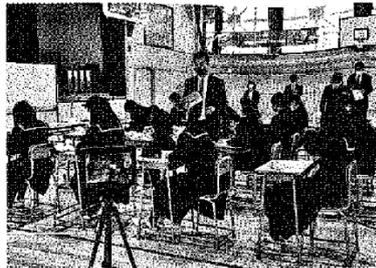


歌えるマスクを活用して指導する中野専任講師

←R3. 1. 26
北海道通信

釧路市教委が特別重点研修講座

学びに向かう集団とは
春採中の数学授業通し考察



【釧路発】釧路市教委は14日、春採中学校を主会場に研修講座「学びに向かう力を育む学習集団づくり」を開いた。釧路管内の小・中学校教諭47人が参加。授業公開、研究協議等を通して「学びに向かう学習集団

づくり」について考えたとともに、学びに向かう力を身に付けた児童生徒を育むための教科指導の在り方について理解を深めた。本年度の特別重点研修。今回は、遠距離や冬場の交通事情等を考慮してウェブ会議システムZoomを導入し、遠隔で参加できるようにした。会場校で24人、Zoomで23人が受講した。

はじめに、市教委の池田妙指導主事が講座の目的について授業では図形の法則などについて考えた。

説明。互いを認め合い、高め合う学校・学級について「こうした学習集団に属する子どもは、自己肯定感が高く、様々なことに自ら力を発揮していく。そういった学級集団の集合体が学校でなければならぬ」とし、そうした集団をつくるのが生きる力を育むことに結び付けていくとした。

続いて、春採中の大内拓哉教諭が、2年数学「三角形と四角形」（生徒数31人）の授業を公開した。授業の目標は、前時に学んだ正方形で成り立っている法則が、それ以外の四角形ではどんな場合に成り立つかを考え、整理し説明するということ。

生徒たちは、どんな四角形であれば成り立つかについて、濃密な議論をもとに、図形の性質などを見いだしながら思考。グループや集団討論などで行った議論を繰り返しながら仮定と結論を整理していくなど、学級集団として学びに向かう姿勢をみせた。

研究協議では、大内教諭が学びに向かう力を育む集団をつくるための学級での具体的な取組として、「聞き方の指導」「話し合い活動の充実」「褒めること」の3点を紹介。話しやすい雰囲気、間違ってもよい雰囲気づくりが最も大切であることを訴えた。

また、学習時には、問題を解決を通して生徒が有能感・達成感・充実感を得ることが、学びに向かう力を

が学びに向かう力を育む集団をつくるための学級での具体的な取組として、「聞き方の指導」「話し合い活動の充実」「褒めること」の3点を紹介。話しやすい雰囲気、間違ってもよい雰囲気づくりが最も大切であることを訴えた。

このあとワークショップ型協議を行い、会場とZoomの受講者が具体的な手立てなどについて意見交換した。

釧路市教委が研修講座「防災教育」

授業で防災小説を活用

講師に道教大釧路・境教授



【釧路発】釧路市教委は、2月14日、釧路教研センターZoomを使って自校・小・中学校の校長・教頭、防災小説を活用した防災教育の進め方などを紹介した。市内の各校の道徳科教師が講師を務めた。目的は、学校保健安全法に基づき、市での防災教育の進め方を紹介した。また、自然災害の危険や日頃の備えに関する知識を深め、防災小説の活用方法を紹介した。講師は道教大釧路・境教授。境教授は防災小説について解説。高知県土佐清水市の中学生が取り組む防災小説づくりの活動をしながら、日頃や発災時の様子を知ることが、物語は必ずしも恐ろしいものであることなどの基本ルールを説明した。これを踏まえ、昨年10

月に釜石中学校で行われた防災教育の映像視聴し、生徒たちは「本大震災時の映像から、震度6強の揺れの激しさを再確認。釧路でも4.0〜5.0の間の揺れが発生しており、現在の城山・春採地区に大きな揺れが押し寄せたことを学んだ。このあく、生徒は震災の映像を共有した。映像視聴後、境教授は防災教育に大切なお話として、想像力を養い、命を守るために向かえるかを地帯共に考えようが必要」とした。

道徳科生時参観し、校内や通学路は常に安全なのかを再確認するなど、現状の距離訓練を含めた留意点を述べた。

最後に、学校保健安全法を前提にし、子どもたちの生き抜く力を育てることに期待を寄せた。

↑ R3. 1. 21
北海道通信

← R3. 3. 1
北海道通信

弟子・藤井2冠語る

将棋 杉本八段オンライン講演

【釧路市教育委員会が主催】釧路市教育委員会が13日、釧路市生涯学習センターで開かれた。将棋棋士で、藤井八段の師匠として知られる杉本八段が、学術的の持つべき姿勢や教える側として大切にしていることなどを話した。

同講演会は教職員や市民を対象に毎年開催している。今回は336人が参加し、感染対策として大阪にいる杉本さんと会場をオンラインでつなぎ、一部の参加者も遠隔地から視聴した。

杉本さんは1968年名古屋市出身。順位戦では現在藤井さんと同じ見城組に在籍し、16人の弟子がいる。この日は藤井さんについて、子供の頃は足跡が香った本など話題にする。簡単な局面でも一手一手慎重に考えて「当たり前」の道でも、うのみにせずに自分で納得した上で指していたと紹介。人工知能（AI）で解いたと思われがちだが、実際は詰め将棋の本や人との対局で学んでいたと明かし、「AIを使い始めたのは中学1、2年で向世代では遅い。AIも使うようになった」と語った。

昨年12月に公式戦で対局した藤井のエピソードも披露。自分が負けた弟子を使っており「普通は相手の弱さはやめようとする、いろいろと考えるが、無意味な思考をせず、目の前の将棋で最善を尽くしたいという思いで挑んでいた。一敗北は、



オンラインで行われた杉本さんによる講演会

シンブルにものを考えられるのが彼の強さ」と説明した。若い人にも「真つすうにしていること」、「あれ」と思うことは正多面多いが、否定すると言いたいことも言えなくなってしまう。若い人には新しい知識があり、いじりも得るものは必ずある」と激励。弟子と一語に考えたらと藤井さんもあるとし、「同じ目標になるのも師匠の一つの形。教える側には柔軟性が必須」と語った。（片山新平）

釧路市教委が教育講演会

「教えずきない」を意識
藤井聡太2冠の師・杉本氏

【釧路市】釧路市教委は、もともと杉本八段が講師の13日、生涯学習センターを移め、人生を豊かにするために大切な学び方を、藤井聡太2冠の師匠として知られる杉本八段が、学術的の持つべき姿勢や教える側として大切にしていることなどを話した。

同講演会は教職員や市民を対象に毎年開催しているが、本年度はコロナウイルス感染症対策のため、杉本八段のいる大阪と会場をオンラインでつなぐなど、一部の参加者がオンラインで参加した。

講演会は、教職員や市民を対象に毎年開催しているが、本年度はコロナウイルス感染症対策のため、杉本八段のいる大阪と会場をオンラインでつなぐなど、一部の参加者がオンラインで参加した。



講演会は、教職員や市民を対象に毎年開催しているが、本年度はコロナウイルス感染症対策のため、杉本八段のいる大阪と会場をオンラインでつなぐなど、一部の参加者がオンラインで参加した。

講演会は、教職員や市民を対象に毎年開催しているが、本年度はコロナウイルス感染症対策のため、杉本八段のいる大阪と会場をオンラインでつなぐなど、一部の参加者がオンラインで参加した。

↑ R3. 2. 14 北海道通信

生に質問した裏話を紹介

【釧路市】釧路市教委は、もともと杉本八段が講師の13日、生涯学習センターを移め、人生を豊かにするために大切な学び方を、藤井聡太2冠の師匠として知られる杉本八段が、学術的の持つべき姿勢や教える側として大切にしていることなどを話した。

同講演会は教職員や市民を対象に毎年開催しているが、本年度はコロナウイルス感染症対策のため、杉本八段のいる大阪と会場をオンラインでつなぐなど、一部の参加者がオンラインで参加した。

講演会は、教職員や市民を対象に毎年開催しているが、本年度はコロナウイルス感染症対策のため、杉本八段のいる大阪と会場をオンラインでつなぐなど、一部の参加者がオンラインで参加した。

↑ R3. 2. 14 釧路新聞

藤井二冠は「自分で考える棋士」

【釧路市】釧路市教委は、もともと杉本八段が講師の13日、生涯学習センターを移め、人生を豊かにするために大切な学び方を、藤井聡太2冠の師匠として知られる杉本八段が、学術的の持つべき姿勢や教える側として大切にしていることなどを話した。

同講演会は教職員や市民を対象に毎年開催しているが、本年度はコロナウイルス感染症対策のため、杉本八段のいる大阪と会場をオンラインでつなぐなど、一部の参加者がオンラインで参加した。

講演会は、教職員や市民を対象に毎年開催しているが、本年度はコロナウイルス感染症対策のため、杉本八段のいる大阪と会場をオンラインでつなぐなど、一部の参加者がオンラインで参加した。



オンライン形式で講演した杉本八段（加藤名朗撮影）

講演会は、教職員や市民を対象に毎年開催しているが、本年度はコロナウイルス感染症対策のため、杉本八段のいる大阪と会場をオンラインでつなぐなど、一部の参加者がオンラインで参加した。

講演会は、教職員や市民を対象に毎年開催しているが、本年度はコロナウイルス感染症対策のため、杉本八段のいる大阪と会場をオンラインでつなぐなど、一部の参加者がオンラインで参加した。

↑ R3. 2. 14 北海道新聞